

課題 2 : La Civilisation, ma Mère !...

海と山、これがかつて私の生きていた楽園だ。そこから全人生が始まった。科学より前、文明と意識より前。きっと私は穏やかな死を迎えるため、いつか、そこへと戻ることになるだろう…。

巖の樹木、海の奥底にその粗雑な根を沈ませる山、これがかつて私たちの生きていた楽園だ。すべての大地は、人類を含め、水にその生命の源を宿す。大洋は断崖に沿って空を目指し、そそり立つヒマラヤスギに沿ってその頂点に向かう。

白馬が走り来て、浜辺でその水滴を払う。私の馬だ。二羽のカモメが天上にて絡まり合う。過去の深みより波が打ち寄せ、ゆっくり、ゆらめき、勢いよく、砕け散る。それは破裂し、それぞれが泡粒のごとき記憶を破裂させる。

些細なことのため、かくも戦ってきたことの苦悩とつらさ。あるために、もつために、存在を成し、存在を完成するために— これらすべて、そう、すべては海の声によって無効となる。ただ、かつてを思う巨大な憂鬱が残るだけだ、すべてを始め、すべてを希求するべき時には。自己への誕生、世界への誕生。

別の波が最初の波を追い越し、ひらめく。新しい生命のきらめきと流れだ。数え切れず、時間の岸辺を溢れ出て、永遠から永遠に、次々と波が生まれては、死んでいく。互いに覆いかぶさり、互いに更新しながら、自らの生命を生命に加えていく。その波の音が聞こえる限り、すべては同じ声で、同じ言葉を繰り返す、「平穩、平穩、平穩」と…。